

貞山運河にぎわい創出

仙台で第1回サミット

仙台湾岸を流れる貞山運河の活性化策を考える「第1回貞山運河サミット」が15日、仙台市青葉区の市福祉プラザであった。一般社団法人貞山運河ネット（仙台市）が主催し、市民ら約30人が参加。沿岸4市の観光関係者が意見交換した。

「貞山運河とにぎわい」

と題したパネル討論で、名取市観光物産協会の佐々木洋会長は、運河などを巡る周遊船の運航事業を紹介。

「地域の魅力を水の上から感じてほしい」と語った。

小型船舶販売業「くろしお」（塩釜市）の鈴木雅博社長は、子育て世代を巻き込む重要性を強調。「遊び

や生き物を通して、子どもに興味を持ってもらうことが大切。そこから歴史も伝えていきたい」と話した。

「貞山運河を知らない人も多く、どう広めるかが課題」と指摘したのは、仙台湾光国際協会受入環境整備課の田中和典課長。「体験活動などで、地域にお金を

貞山運河の利活用を話し合う観光関係者



落としてもらう方法を模索している」と説明した。

多賀城市観光協会前事務局長の高倉敏明氏は「一つの市だけで活動するよりも連携した方がいい。県はイニシアチブを取る役割が求められる」と提言した。